

本人確認アシストAPIからのお知らせ

株式会社N T Tドコモ

2020年12月14日

平素より本人確認アシストAPIをご利用いただき、まことにありがとうございます。
この度、本人確認アシストAPIの機能追加およびAPI仕様の変更についてご説明・ご確認の時間を取らせていただきました。

本日は、以下の3点についてご説明・ご確認させていただきたいと思います。

- **本人確認アシストAPIの機能追加とそれに伴うマニュアル変更について**
 - ✓ 提供開始時期：リリース済み
- **dアカウントの2段階認証必須化に伴う画面フローの変更について**
 - ✓ 提供開始時期：2021年1月末頃
- **ドコモ側システム更改に伴う仕様の確認依頼について**
 - ✓ 提供開始時期：2021年3月末頃

- 
- **本人確認アシストAPIの機能追加とそれに伴うマニュアル変更について**

1. 本人確認アシストAPIの機能追加とそれに伴うマニュアル変更について

各社よりご要望いただいていた機能の追加開発を行っております。また、それに伴いマニュアルも変更しておりますので、変更の概要についてご説明いたします。

下記、全機能について、追加開発や追加の設定を実施しない限り、反映されませんので、既存の本人確認アシストAPIには影響ありません。

変更の概要

内容		主なマニュアル更新箇所 ※詳細はマニュアル内改版履歴をご参照ください
<u>項目追加</u>	1.契約者氏名・利用者氏名の姓・名分割（マッチング） 2.本人確認書類区分の文字列化（フィルイン/マッチング） 3.手続き日の範囲マッチング（マッチング） 4.運転免許証番号11桁マッチング（マッチング）	本人確認アシストAPIマニュアル 4.4インターフェース詳細 別紙1、別紙3、別紙5、別紙6
<u>トランザクションID</u>	5.トランザクションIDの追加	本人確認アシストAPIマニュアル 2.5.2トランザクションID 4.4インターフェース詳細 別紙9
<u>法人契約者対応版API</u>	6.法人契約者対応版APIの新規追加	本人確認アシストAPIマニュアル 1.2用語 2.3.1提供対象者 2.3.2本人確認アシスト情報（ドコモの個人契約のお客様） 2.3.3本人確認アシスト情報（ドコモの法人契約のお客様） 2.4.3個人契約エンドポイントで、法人契約のお客様が利用した場合の動作 4.4インターフェース詳細 別紙5、別紙6
<u>同意必須機能</u>	7.同意画面の省略不可能機能	dアカウント・コネクトマニュアル 2.3.2認可機能(5)強制的な同意

1. 本人確認アシストAPIの機能追加とそれに伴うマニュアル変更について

1. 契約者氏名・利用者氏名の姓・名分割（マッチング）

フィルインでは実現できていた姓・名を分割した応答がマッチングでも可能となりました。

【新規に追加した契約者氏名マッチング項目（赤字）】

項目	詳細項目	詳細
契約者氏名	契約者氏名	お客様の氏名
	契約者氏名（フリガナ）	お客様氏名のフリガナ（半角カタカナ）
	契約者氏名（フリガナ）	お客様氏名のフリガナ（全角カタカナ）
	契約者氏名（ふりがな）	お客様氏名のふりがな（全角ひらがな）
	契約者氏名（氏）	お客様の氏名（姓）
	契約者氏名（名）	お客様の氏名（名）
	契約者氏名（フリガナ・氏）	お客様氏名（姓）のフリガナ（半角カタカナ）
	契約者氏名（フリガナ・名）	お客様氏名（名）のフリガナ（半角カタカナ）
	契約者氏名（フリガナ・氏）	お客様氏名（姓）のフリガナ（全角カタカナ）
	契約者氏名（フリガナ・名）	お客様氏名（名）のフリガナ（全角カタカナ）
	契約者氏名（ふりがな・氏）	お客様氏名（姓）のふりがな（全角ひらがな）
	契約者氏名（ふりがな・名）	お客様氏名（名）のふりがな（全角ひらがな）

【参考】現状のフィルイン契約者氏名項目

項目	詳細項目	詳細
契約者氏名	契約者氏名（氏）	お客様の氏名（姓）
	契約者氏名（名）	お客様の氏名（名）
	契約者氏名（フリガナ・氏）	お客様氏名（姓）のフリガナ（半角カタカナ）
	契約者氏名（フリガナ・名）	お客様氏名（名）のフリガナ（半角カタカナ）
	契約者氏名（フリガナ・氏）	お客様氏名（姓）のフリガナ（全角カタカナ）
	契約者氏名（フリガナ・名）	お客様氏名（名）のフリガナ（全角カタカナ）
	契約者氏名（ふりがな・氏）	お客様氏名（姓）のふりがな（全角ひらがな）
	契約者氏名（ふりがな・名）	お客様氏名（名）のふりがな（全角ひらがな）

※利用者情報についても契約者と同様に氏名分割マッチングが可能となっています。

1. 本人確認アシストAPIの機能追加とそれに伴うマニュアル変更について

2. 本人確認書類区分の文字列化（フィルイン/マッチング）

フィルイン・マッチング共に本人確認書類の区分を区分コード（01やA4など）ではなく、文字列（driving_licenseなど）で要求・応答できるようになりました。

【本人確認書類と文字列の対応表】

	本人確認書類	文字列	区分コード(公的証明書種別)
①	運転免許証	driving_license	01
②	日本国パスポート	japanese_passport	15
③	健康保険証	health_insurance_card	03
④	特別永住者証明書	special_permanent_resident_certificate	86,87
⑤	永住許可在留カード	resident_card	05,50
⑥	個人番号カード（マイナンバーカード）	individual_number_card	A4
⑦	住基カード（写真有）	basic_resident_register_card	33
⑧	その他	others	

↑ 新項目

1. 本人確認アシストAPIの機能追加とそれに伴うマニュアル変更について

3. 手続き日の範囲マッチング（マッチング）

契約してから～ヶ月以上経っているかどうか判定できるように、範囲でのマッチングを実現します。

※手続き日はユーザーの与信判定の材料として、手続き日から半年以上経過しているか？といった利用が可能です

【例】

要求 : 20191011	手続き日 : 20191111	結果 : false
要求 : 20191111	手続き日 : 20191111	結果 : true
要求 : 20191211	手続き日 : 20191111	結果 : true
要求 : 20191111	手続き日 : なし	結果 : false

1. 本人確認アシストAPIの機能追加とそれに伴うマニュアル変更について

4. 運転免許証番号11桁マッチング（マッチング）

運転免許証のマッチングは現在、全12桁でマッチングを行っていました。しかし下一桁は運転免許証の紛失により変化する数値であり、12桁でマッチングしていると、同じ人物であるにも関わらず、falseを返してしまうため、前半11桁でもマッチングできるようになりました。

【例】

マッチング要求(導入企業側免許証番号)：123456789012

ドコモ保持のAさんの免許証番号：123456789012

→結果：true

・Aさん免許証紛失後

マッチング要求(導入企業側免許証番号)：12345678901**3**

ドコモ保持のAさんの免許証番号：123456789012

→結果：true

1. 本人確認アシストAPIの機能追加とそれに伴うマニュアル変更について

5. トランザクションIDの追加

任意パラメータを設定することで、ユーザのトランザクションそれぞれに通し番号（トランザクションID）を付与できるようになりました。これを設定することで、導入企業側でのコール数の異議申し立てがあった場合に、導入企業側のログとドコモ側のログを照合させることで、異常のあるトランザクションについて、調査が可能となります。

【本人確認アシスト要求（フィルインタイプ）の電文例】

```
GET /prod/v1/customerinfo/provide1 HTTP/1.1
Host: api.apl01.spmode.ne.jp
Authorization: Bearer exampleAccessToken12345678901234
x-ibm-client-id: example-client-id
x-ibm-client-secret: example-client-secret
x-transaction-id:g00_0000_0000_00202004011510050000001
```

【本人確認アシスト応答（フィルインタイプ）の電文例】

```
HTTP/1.1 200 OK
Access-Control-Allow-Credentials: false
Access-Control-Allow-Methods: GET
Access-Control-Allow-Origin: *
Access-Control-Expose-Headers: APIIm-Debug-Trans-Id, X-RateLimit-Limit, X-RateLimit-Remaining, X-RateLimit-Reset, X-Global-Transaction-ID
Cache-Control: no-store
Connection: Keep-Alive
Content-Type: application/json
Date: Tue, 28 Mar 2017 09:02:15 GMT
Pragma: no-cache
Transfer-Encoding: chunked
X-Backside-Transport: OK OK
X-Global-Transaction-ID: 6064242
X-RateLimit-Limit: name=rate-limit-1,10;
X-RateLimit-Remaining: name=rate-limit-1,9;
x-transaction-id:g00_0000_0000_00202004011510050000001

{"result_code":"1000","sub":"https://i.mydocomo.com/id/KCMmLjOthNVgWuotRTNYy8VSONM1GTqEoc.NesLGKzc_","identification2_type":"21","identification1_type":"48","aud":"SD_ServiceXYZ300","iss":"https://conf.uw.docomo.ne.jp/"}
```

※現在、ドコモから毎月コール数を通知し請求を行っているが、コール数（請求額）に異議申し立てをいただいた場合には異常があると思われるトランザクションを特定できない状況となっております。

1. 本人確認アシストAPIの機能追加とそれに伴うマニュアル変更について

6.法人契約者対応版APIの新規追加

現在導入いただいている本人確認アシストAPI（個人契約エンドポイント）とは別に新API（個人・法人契約エンドポイント）として開発しました。この新APIでは、個人契約者、法人契約者ともに対象とします。

※エンドポイントとはAPIの機能をリクエストするために指定する固有の一意な URIで、既存の本人確認アシストAPIを「個人契約エンドポイント」とし、新APIを「個人・法人契約エンドポイント」と定義しています。

【提供対象者一覧】

アカウント	提供対象 (個人契約エンドポイント)	提供対象 (個人・法人契約エンドポイント)
ドコモの個人契約のお客様	○：提供対象	○：提供対象
ドコモの法人契約のお客様	×：提供対象外	○：提供対象
ドコモ以外のお客様	×：提供対象外	×：提供対象外

↑ 新API

【個人・法人契約エンドポイントの提供項目】

- ・契約者携帯電話番号
- ・手続き日

※氏名や住所等その他の情報は提供できません

【個人・法人契約エンドポイントの利用シーン】

- ・企業イントラネットなどへのアクセス時の認証手段（電話番号をマッチングして従業員を特定して認証）

※詳細は次ページで紹介いたします。

※既存の本人確認アシストAPIはドコモの個人契約者のみ対象としており、法人契約者はresult_code:10FWのエラーを返却しており、法人契約者も対象とする場合にはドコモ側での設定の変更及び、導入企業様側でのエンドポイントURLとスコープ変更の追加開発が必要です。

【参考】利用ケース：従業員のイントラネットアクセス時のセキュリティ強化

在宅勤務・テレワーク需要が増加するなか、従業員の利用する社内システムやイントラネット・社内利用のクラウドサービスの認証向けに、従来のワンタイムパスワードトークンやSMSによる2段階認証の代替手段として、本人確認アシストAPI（個人契約者・法人契約者の電話番号提供）を回線認証限定で提供することで、セキュアかつ利便性の高い本人確認機能を実現します。

現 状

社内システムの認証では2段階認証の実現手段として、ワンタイムパスワードトークンやSMSを使用している。

課 題

ワンタイムパスワードトークン発行・送付
のコスト・手間がかかる

（導入企業の観点）

ワンタイムパスワードトークン保持の手間がかかる
（従業員の観点）

アプリの切替を必要とする煩雑なUI

（アプリを切り替える煩雑さによる従業員心情の悪化）

導入効果

企業への提供価値

- ワンタイムパスワードトークンに係る運用（発行・送付など）が不要となる（コスト削減）
- SMSによる2段階認証よりセキュアかつ簡単なUIで本人確認をすることができる

従業員への提供価値

- SMS認証やワンタイムパスワードといった手間なく、簡単にセキュアな認証を利用できる

対象業種

都市銀行

地方銀行

信用金庫

クレジット
カード

生命保険

損害保険

その他金融

公営競技
（競馬・競輪・競艇・オートレース）

嗜好品
（酒・タバコ）

Maas

シェアリング
エコノミー

Sler

機能タイプ

フィルイン

マッチング

利用項目例

氏名

住所

携帯電話番号

生年月日

連絡先
電話番号

本人確認
書類情報

手続き日

利用者情報
（氏名・生年月日）

1. 本人確認アシストAPIの機能追加とそれに伴うマニュアル変更について

7.同意画面の省略不可能機能

導入企業側のパラメータ設定で、同意画面の省略を不可能にできるようになりました。設定した場合、下図の赤枠のチェックボックスが非表示となり、以降、ユーザが認証した際には毎回同意画面が表示されるようになります。

【同意画面】

サービス連携の同意

d アカウント

サービス名
「本人確認アシストAPI」のデモサイト構築

提供事業者
株式会社NTTドコモ

下記の情報が、ドコモから上記の提供事業者提供されます。
提供する情報は、上記のサービスのプライバシーポリシーに従います。

[上記のサービスのプライバシーポリシー](#)

契約者情報マッチング結果 + 開く

契約者情報 + 開く

☒ 次回以降、上記につき同意したものとし、同意を省略する

同意する

← このチェックボックスを非表示とできます

※現在、認証後の同意画面にて、「次回以降、同意画面を省略する」にチェックを入れると、ユーザがサービス連携を解除しない限り、2度目以降は同意画面が表示されない仕様となっています。

- 
- **dアカウントの2段階認証必須化に伴う画面フローの変更について**

2. dアカウントの2段階認証必須化に伴う画面フローの変更について

ドコモ口座の不正利用の件で、多くの方々にご迷惑、ご心配をおかけしております。
本件をうけ、弊社ではdアカウントの認証に、二段階認証を必須化することになりました。

本人確認を行うためのdアカウント認証画面は、お客様のA) 利用端末・回線、およびB) dアカウントのセキュリティ設定により異なります。

B) 2段階認証を設定済みの場合は、パスワード入力後に「セキュリティコード」または「アプリ操作」のいずれかの認証を行います。

B) パスワード無効化設定済みの場合は、パスワード入力が不要となり、端末の生体認証または画面ロックで認証を行います。

※「アプリ操作」や、「パスワード無効化設定」 および「生体認証または画面ロックで認証」は、お客さま自身でdアカウント設定アプリによる利用設定が必要です。

それぞれの設定時の認証方法と認証の可否は下記の表のとおりです。

A)お客さまの 利用端末・回線		B)お客さまのdアカウントのセキュリティ設定			本人確認アシストAPIの設定	
		2段階認証(パスワード有効)		パスワードレス認証 (パスワード無効化設定)	通常設定	回線認証限定
		セキュリティコード	アプリ操作			
スマートフォン	①ドコモ回線接続	回線認証+ネットワーク暗証番号で認証 ⇒ 認証画面①へ			認証可	認証可
	生体認証または画面ロックで認証	端末の生体認証または画面ロック で認証 ⇒ 認証画面②へ			認証可	認証不可
	②Wi-Fi接続	ID/パスワード入力 +セキュリティコード (SMSまたはメール)で認証 ⇒ 認証画面③へ	ID/パスワード入力 +アプリ操作で認証 ⇒ 認証画面④へ	端末の生体認証または画面ロックで認証 ⇒ 認証画面②へ ※「生体認証または画面ロックで認証」 ボタンが表示されない場合、 別のIDでログインしたい場合は 認証画面⑤へ	認証可	認証不可
	生体認証または画面ロックで認証	端末の生体認証または画面ロック で認証 ⇒ 認証画面②へ			認証可	認証不可
PC など	③インターネット接続	ID/パスワード入力 +セキュリティコード (SMSまたはメール)で認証 ⇒ 認証画面③へ	ID/パスワード入力 +スマートフォンのアプリ操作で認証 ⇒ 認証画面④へ	ID入力 +スマートフォンの生体認証 または画面ロックで認証 ⇒ 認証画面⑤へ	認証可	認証不可

2. dアカウントの2段階認証必須化に伴う画面フローの変更について（認証画面①②）

認証画面①

※1

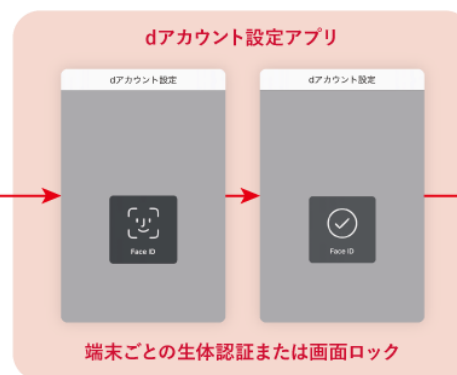
ネットワーク暗証番号入力画面

※1:回線認証限定設定の場合、
「生体認証または画面ロックで認証」のボタンは表示されません。

認証画面②

※2

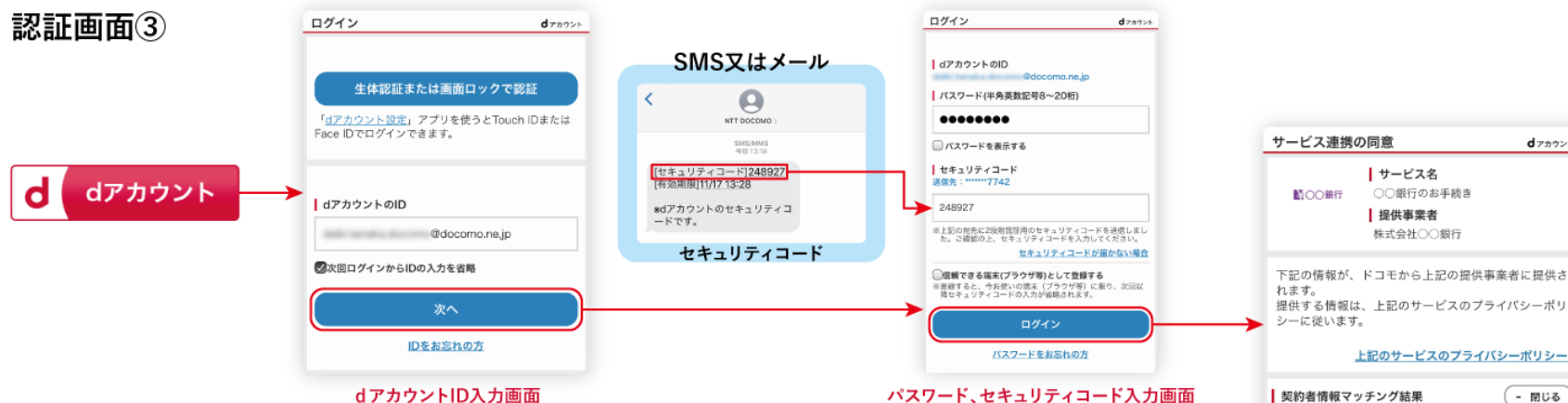
dアカウントID入力画面(Wi-Fi/インターネット接続時)
またはネットワーク暗証番号入力画面(ドコモ回線接続時)



※2:「生体認証または画面ロックで認証」ボタンは、
スマートフォンのChrome・Safariブラウザ/Samsungブラウザ/標準ブラウザでのみ表示されます。

2. dアカウントの2段階認証必須化に伴う画面フローの変更について（認証画面③④）

認証画面③

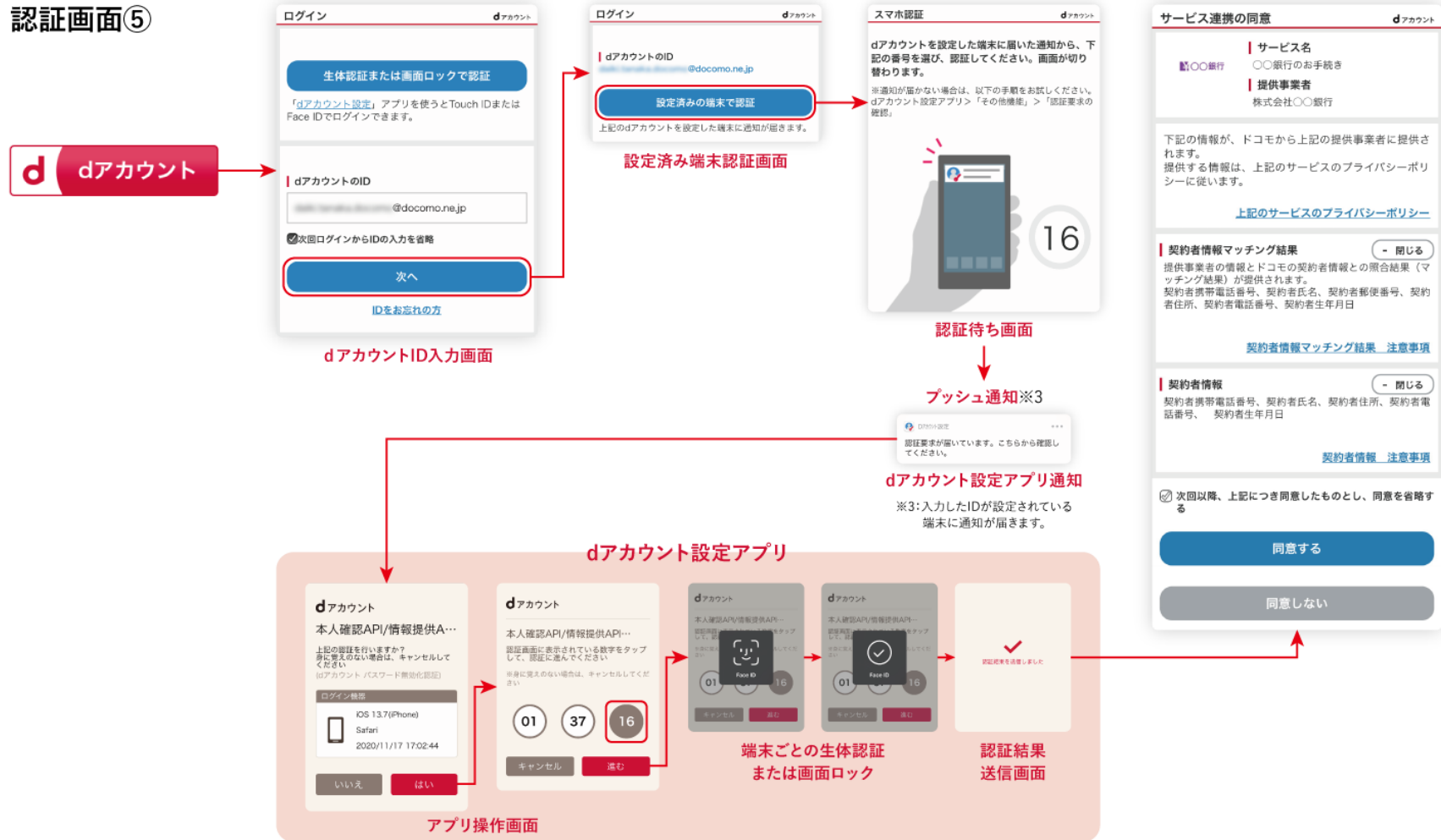


認証画面④



2. dアカウントの2段階認証必須化に伴う画面フローの変更について（認証画面⑤）

認証画面⑤



- 
- **ドコモ側システム更改に伴う仕様の確認依頼について**

3. ドコモ側システム更改に伴う仕様の確認依頼について

本人確認アシストAPIにつきまして、システムの移行に伴い通信仕様とレスポンスヘッダの返却仕様について一部変更が
ございます。

システム移行に伴う変更となり、ご迷惑をお掛けして大変申し訳ございませんが、
影響確認のため以下の事項についてご確認頂けますでしょうか。

	変更概要	確認内容
<u>通信仕様の確認</u>	対応プロトコルバージョン：TLS1.2 のみに変更 対応暗号化スイートを更新	HTTP、TLSの接続仕様を満たしているか確認
<u>httpヘッダの変更</u>	正常系でのレスポンスヘッダ項目差分 400エラー系でのレスポンスヘッダの出力内容差分	レスポンスヘッダ値を参照して、処理を実行しているか確認 実行している場合、そのレスポンスヘッダ項目名を確認

3. ドコモ側システム更改に伴う仕様の確認依頼について

通信仕様の確認

HTTPおよびTLSの内容につきまして、接続環境が下記に対応しているか、ご確認をお願いいたします。
特に本人確認アシストAPIマニュアル_1.8版まででは、TLSのバージョンを1.1も可としておりましたが、
1.9版ではTLS 1.2のみに変更となっております。更新されていない場合は、バージョンアップをお願いいたします。

HTTPに関する情報

- HTTPバージョン : 1.1
- URIスキーム : https
- 文字コード : UTF-8

TLSに関する情報

- 対応プロトコルバージョン : TLS1.2
- ルート証明書 : GlobalSign Root CA - R2 (シリアル番号 : 0400000000010f8626e60d)
- 対応暗号化スイート(TLS v1.2 cipher suites) :

TLS_RSA_WITH_NULL_SHA256	NULL-SHA256	TLS_ECDH_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256	ECDH-RSA-AES128-SHA256
TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256	AES128-SHA256	TLS_ECDH_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA384	ECDH-RSA-AES256-SHA384
TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA256	AES256-SHA256	TLS_ECDH_RSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256	ECDH-RSA-AES128-GCM-SHA256
TLS_RSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256	AES128-GCM-SHA256	TLS_ECDH_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384	ECDH-RSA-AES256-GCM-SHA384
TLS_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384	AES256-GCM-SHA384		
TLS_DH_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256	DH-RSA-AES128-SHA256	TLS_ECDH_ECDSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256	ECDH-ECDSA-AES128-SHA256
TLS_DH_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA256	DH-RSA-AES256-SHA256	TLS_ECDH_ECDSA_WITH_AES_256_CBC_SHA384	ECDH-ECDSA-AES256-SHA384
TLS_DH_RSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256	DH-RSA-AES128-GCM-SHA256	TLS_ECDH_ECDSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256	ECDH-ECDSA-AES128-GCM-SHA256
TLS_DH_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384	DH-RSA-AES256-GCM-SHA384	TLS_ECDH_ECDSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384	ECDH-ECDSA-AES256-GCM-SHA384
TLS_DH_DSS_WITH_AES_128_CBC_SHA256	DH-DSS-AES128-SHA256	TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256	ECDHE-RSA-AES128-SHA256
TLS_DH_DSS_WITH_AES_256_CBC_SHA256	DH-DSS-AES256-SHA256	TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA384	ECDHE-RSA-AES256-SHA384
TLS_DH_DSS_WITH_AES_128_GCM_SHA256	DH-DSS-AES128-GCM-SHA256	TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256	ECDHE-RSA-AES128-GCM-SHA256
TLS_DH_DSS_WITH_AES_256_GCM_SHA384	DH-DSS-AES256-GCM-SHA384	TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384	ECDHE-RSA-AES256-GCM-SHA384
TLS_DHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256	DHE-RSA-AES128-SHA256	TLS_ECDHE_ECDSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256	ECDHE-ECDSA-AES128-SHA256
TLS_DHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA256	DHE-RSA-AES256-SHA256	TLS_ECDHE_ECDSA_WITH_AES_256_CBC_SHA384	ECDHE-ECDSA-AES256-SHA384
TLS_DHE_RSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256	DHE-RSA-AES128-GCM-SHA256	TLS_ECDHE_ECDSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256	ECDHE-ECDSA-AES128-GCM-SHA256
TLS_DHE_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384	DHE-RSA-AES256-GCM-SHA384	TLS_ECDHE_ECDSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384	ECDHE-ECDSA-AES256-GCM-SHA384
TLS_DHE_DSS_WITH_AES_128_CBC_SHA256	DHE-DSS-AES128-SHA256	TLS_DH_anon_WITH_AES_128_CBC_SHA256	ADH-AES128-SHA256
TLS_DHE_DSS_WITH_AES_256_CBC_SHA256	DHE-DSS-AES256-SHA256	TLS_DH_anon_WITH_AES_256_CBC_SHA256	ADH-AES256-SHA256
TLS_DHE_DSS_WITH_AES_128_GCM_SHA256	DHE-DSS-AES128-GCM-SHA256	TLS_DH_anon_WITH_AES_128_GCM_SHA256	ADH-AES128-GCM-SHA256
TLS_DHE_DSS_WITH_AES_256_GCM_SHA384	DHE-DSS-AES256-GCM-SHA384	TLS_DH_anon_WITH_AES_256_GCM_SHA384	ADH-AES256-GCM-SHA384

【参考】TLS v1.2によりサポートされている暗号化スイートの一覧

<https://www.openssl.org/docs/man1.0.2/man1/ciphers.html>

3. ドコモ側システム更改に伴う仕様の確認依頼について

httpヘッダの変更

正常系におけるレスポンスヘッダ項目差分箇所について、展開させていただきます。

No	マニュアル記載のレスポンスヘッダ	現行(APIConnect)	移行後(Apigee)	差分内容
1	Access-Control-Allow-Credentials	- (設計書に記載あるが、現行/移行共に出力無し)	- (設計書に記載あるが、現行/移行共に出力無し)	
2	Access-Control-Allow-Methods	○	○	
3	Access-Control-Allow-Origin	○	○	
4	Access-Control-Expose-Headers	○	○	
5	Cache-Control	○	○	
6	Connection	○	○	
7	Content-Type	○	○	
8	Date	○	○	
9	Pragma	○	○	
10	Transfer-Encoding	○	○	
11	X-Backside-Transport	○	○	
12	X-Global-Transaction-ID	○	○	
13	X-RateLimit-Limit	○	○	
14	X-RateLimit-Remaining	○	○	
15	-	content-encoding: gzip	-	マニュアルに記載のない項目。 現行のみ環境によっては出力有りの可能性があったが、移行後は出力ありません。

3. ドコモ側システム更改に伴う仕様の確認依頼について

httpヘッダの変更

400エラー系におけるレスポンスヘッダの出力内容差分箇所について、展開させていただきます。

■ 400エラー系_項目差分箇所

No	マニュアル記載のレスポンスヘッダ	現行(APIConnect)	移行後(Apigee)	差分内容
1	Date	△(エラーによって返却)	○(必ず返却)	マニュアル上、返却されない場合でも返却される。
2	—	—	ContentLength	マニュアルに記載無いが返却される。

■ 400エラー系_ステータス差分箇所

No	マニュアル記載のレスポンスヘッダ	現行(APIConnect)	移行後(Apigee)	差分内容
1	Connection	close	Keep-alive	”close”で返却される場合でも”Keep-alive”で返却される。